

はじめに

校長 大栗 勇一

オックスブリッジ研修も4回目を迎えました。

研修初日の早朝、研修に出発する生徒諸君に、次のようなはなむけの言葉をかけました。

「日本資本主義の父」と呼ばれる「渋沢栄一」が、ちょうど150年前、江戸幕府が派遣した親善派遣団の随行者として、ヨーロッパに向けて旅立っています。

渋沢は各所を本当に貪欲に視察して回りました。そして、そこで見聞した、西洋文明にカルチャーショックを受けました。そのショックが彼の人生に大きな衝撃を与えたといわれています。

そして、帰国後、渋沢はヨーロッパで学んできた経済システムを日本に取り入れることに専念しました。銀行を設立して、資金を集め、その資金を各産業に供給して500社を超える会社の設立を指導しました。また、フランス式の機械製糸工場を導入して、官営富岡製糸場の建設に当たるなどの仕事にも当たりました。

今回の研修が、皆さん一人一人にとって小さな一歩となるか、それとも渋沢同様に大きな一歩となるか。どちらになるかは、皆さん方一人一人の在り方にかかっていると思います。研修を終えて帰国した時に、小さな一歩と感じたか、大きな一歩と感じたか、また、今後何をしなければならないと考えたか。是非聞かせてもらいたいと思います。

ほぼ以上のような内容でした。明治時代に活躍した日本人の多くが何らかの形で海外を経験していたそうです。江戸時代の封建社会を生きてきた日本人が、市民革命と産業革命を成し遂げ、民主主義や資本主義を基調としたヨーロッパ近代社会を目の当たりにした時、見たことのない、先進の政治や経済、文化、教育など社会の諸制度に驚き、それを貪欲に吸収して帰国後の来たるべき時には、祖国日本に取り入れて近代化に貢献しようと考えたであろうことは疑いのないところです。

グローバル化がハイスピードで進む現在の日本では、世界で通用するグローバル人材の育成が強く求められています。そうした意味では、単に語学研修や異文化理解だけが目的ではなく、正にグローバル人材を育てることを目的として実施している本校のオックスブリッジ研修は、現代日本の求めに応じたものということができると思います。そして、群馬という地方にありながら、社会のリーダーを育成するという使命を持つ前橋高校にとっても、この研修の意義は大きいといえることができます。

今回の研修を通して、その一部ではあっても、「世界の一流」の一端を実際に垣間見られ、触れられたことが、研修に参加した生徒の心をどの位刺激し、その将来をどの位変えていくか、大いに関心があります。おそらく、彼らは、志をより高く設定し直し、今後の行動もより意欲的・積極的になっていくものと推察し、大いに期待するところです。また、彼らが経験し、体得してきた研修の成果が、前橋高校生全体に行き渡ることを願ってやみません。

結びに、今回の研修の実施に当たり、株式会社アイ・エス・エイの高崎支店長永井涼子様、添乗員として何かとお世話いただいた松井元様、学校側では責任者としてご苦労いただいた副校長八木原賢先生(現玉村高校長)、引率を快く引き受けてくれた加藤俊介先生、事前研修でお世話になったALTのバウモンク・クリストファー先生をはじめ、ご協力いただいた全ての方々に感謝を申し上げ、挨拶いたします。